
”キミ”が輝く夜空のむこう

朔良梨里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

”キミ”が輝く夜空のむこう

【Nコード】

N5130E

【作者名】

朔良梨里

【あらすじ】

いつも隣には”キミ”がいて、笑いあって、喧嘩して・・・毎日がきらきらと輝いていた。命・死・・・そして生きるということ。天使が笑って、奇跡を届けてくれた。切ない恋愛小説です。

Dear”乃亜” プロローグ&1 - 出会い - 1

”キミ”が輝く夜空のむこう

プロローグ

あの時から

”キミ”は僕の隣にいた

いつしかそれが普通になっていた

”キミ”がいて

”僕”がいて

楽しくって

幸せで・・・

永遠に続くと思っていた・・・

もしもこれが運命なのだとしても

ただの偶然なのだとしても

”キミ”に出会えてよかった

そう、思う

あの夜空を見るたびに思い出す

そう、何度でも

始まりはあの日

夜空の下

冬のある日

大きな

木の下で・・・

1 - 出会い -

風が冷たい。

雪が降っている。

真っ暗な空。

その中で輝く星

手を伸ばす

届かない

掴めない

分かっている

それでも

星はあそこにある

輝き続けている

ここは丘の上。

僕のお気に入り場所だ。

大きな木がそびえ立っていて、その木の下で見る街の景色。

とても綺麗で、それでいてどこか悲しい

毎日ほとんどここにいます。

唯一心の落ち着く場所。

「はあ」

今日はとても寒い。

といつても、まだ十二月二十四日。

俗に言う、クリスマスイブだ。

でも僕には縁がない。

いつもひとり。

それが当たり前になっていた。

家族ともあまり話さない。

友達もあまりいない。

それは自分が選んだことだから。

自分でも・・・それでいいと思っていた。

ずっと・・・

木の下に行こうと思った。

僕がいる場所は、木から少しはなれたところだ。

「え・・・」

そこであることに気がついた。

木の下に誰かがいる。

こんな時間に。

暗い中、よく見てみると、女の子だった。

髪は肩のところまであって、とても・・・綺麗だ。

しかし顔色はあまりよくないようだ。

どうしたのだろう。

彼女は空を見ている。

一歩一歩彼女に近づいていく。

すると彼女も僕に気がついたようで、振り向いた。

そして 彼女は微笑んだ。

夢げで

少しでも触れたら

壊れそうなほど

繊細で

これが”キミ”との出会いだった

「あなた、誰？」

いつの間にか僕の目の前に彼女がいた。

そしていきなり彼女に話しかけられた。というより訊かれた。

「誰って言われても…」

僕があせっている、

「何でこんなところにいるのよ！？今日はクリスマス！こんな人気がないところに好んでくる人がいるはずがないわ！」

「…それを言うならあなただって」

「…ふんっ」

彼女は頬を膨らませた。

どつやら憤慨しているようだ。

それっきり、しばらく沈黙している。

…さっきの笑顔はなんだったのだろう。

幻覚をみたのだろうか？

いや、そんなことはないはず。

確かにさっきはとびっきりの素敵な笑顔を…。

いろいろ考えていると、彼女が沈黙を破った。

僕を睨みながら、

「ったく。私の名前は柀乃亜。分かった？分かったならあなたも名乗りなさいよ！」

大人しそうに見えて結構きつい人だ。

でもそれがわざとらしくて、かわいい。

自然と笑いがこみ上げてきた。

「あはつ。僕は櫻井想。これでいいだろ？」

「う。何よー！」

彼女　　乃亜は顔を真っ赤にさせている。

「あ、ごめん。こんな会話久しぶりだったから」

「ついつい謝ってしまう。」

すると彼女は興味深そうに訊いてきた。

「久しぶりって？」

「僕 中学のときから登校拒否しちゃって、現在引きこもり中なんだよね。親ともあんまり話さないし。友達とかもちろんいないし」

何こんな事言ってるんだろ。

しかも初対面の人に。

しかし、乃亜は興味深そうに僕の顔を覗き込んでいた。

「だから…僕は」

「待った！」

僕が話を続けようとする、乃亜が口を挟んだ。予想外だった。

もっとも、予想するほどの経験もないのだけど。

「え？」

「どうせキミは、”僕は出来損ないなんだーっ”とか言おうとしたんでしょ？大丈夫。初対面のあたしに”自分引きこもりです”って言えるんだから。うじうじして会話できないとかじゃないでしょ？」

乃亜は出会ったときのような笑顔で笑っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5130e/>

”キミ”が輝く夜空のむこう

2010年10月28日00時53分発行